

黒田 晶子



「この道はアいつか来た道イ……」
夫の歌声が聞こえてきます。「アアア
(ここで「心」が「音楽」を上まわ
る) そうだよ、ハマナスの花が咲いて
るウ」 白秋のアカシヤはいつのまに
かハマナスに。夫は自分が替え歌の名
手であることにまだ気づいていません。
石狩浜に、またハマナスの季節がやっ
てきました。このハマナスは丈が低
くて、ことに石狩川河口の、灯台先の
植物保護区一帯ではほとんどカーペッ
ト状です。砂に結び留めたりポンのよ
うな花に、石狩の人たちは「ハマナス
はこれでなくっちゃ」などと、勝手に
鼻をたかくしていますが、これも吹きっ
さらしの土地に住む、同居人のひいき
目でしょうか。

ハマナスには、小さな、しかし鮮か

な思い出があります。癌で死の床にあ
る人がいました。お見舞のおり「こん
どハマナスの花を持ってきますからね」
と約束したのが、次にお会いするのは
お葬式の日になってしまい、私は白い
ハマナスを一輪、棺の中のその人の髪
に挿すことになりました。「あのとき
約束したハマナスよ」と告げると、そ
の方はうなずいてくれるではありません
か。「やっぱり、覚えてたのね」と

思ったとき、お堂の床が多勢の参列者
の歩みにつれてかすかにきしんでいる
のに気づきました。床のきしみが棺に
伝わっていたのです。肉の緊張から解
かれた身は、それほど軽くなっていた
のでした。ヘデモ私、少シモ不思議ト
思ワナカッタVひとの知覚のどこかに
は、こんな意識の谷ひだがあるもの
ですね。

こんど石狩町では、河口先端の46ha
をハマナスの丘公園として整備するこ
とになり、私たち緑化推進協議会の七
名は去年の六月から九月、該当地域の
植物調査を行いました。なにしろ風の
強いところで、調査用紙がもみくちゃ
になるほどでしたが、何とか百五十種
の植物名リスト、主要海浜植物および
湿地植物の分布図、地形断面と植生相
関表、標本、写真をつくることができ
ました。考察・結論として、この貴重
な海浜の自然草原と砂丘をふくむ荒漢
とした景観はできるだけ現状を保存し、

学習と休憩所をかねた観察センター的
な施設を、区域の外側につくることを
提案しました。

計画素案ではアスファルト舗装道路、
三軒のトイレつきあすまや、展望タワー
などが盛りこまれていましたが、その
後の話し合いと協議の末、道は旧来の
管理道路を最大限利用した、幅1mの
ダスト舗装、トイレなし休憩所一ヶ所
他に観察センター建設という線におち
ついて、町は現在予算計上準備中です。

この調査を通して私たちはあらため
て自然が、いろんなものをこたにつ
めこんだ大袋のようなものではなく、
実に整然とした配列であることに感動
しました。波打際から、砂丘、砂丘の
かげ、安定した内側の砂丘、砂丘間の
低湿地、そして川岸と、植物たちはわ
ずかな変化に応じてクッキリと生存の
構造をみせているように思われました。
一方それでいて思いがけない、その
場において身をかがめなければ見えな
い谷ひだをゆたかに秘めているのです。
葦のなかの今まで誰も知らなかった小
沼、午後のひつじの刻、水面にヒツ
リと咲くヒツジグサ、女性調査員から
石狩湾の波音にも負けない大喚声此起
つた海蘭の大群落、そして丈の20倍にも
及ぶイソスミレのけむるような細根……

そして花が散り葉が消えたあと、人
けない野は、キタキツネの骨をまっ白

に洗い曝し、チドリ卵の破片を砂に
かえし、こうして痕跡と予感にみちた
無へとかえることで、一そう空に近く
なるのです。

「何とかかなさきやき事が神につ
いて聞かされたのだらう」と聖書のヨ
ブ記にあります。「しかしその力ある
雷については、だれが理解力を示せよ
るか」

私が住みついて十年のまに、石狩の
海水浴場は季節を問わず車のタイヤ跡
だらけになり、砂丘にはホットケーキ
に二またのフォークを押しつけたよう
な溝がえぐられ、砂丘のかたちさえも
変わりつつあります。天然の防風林で
あった柏林も、港の開発、砂利採取で
そここに風の通りみちがあいていま
す。

「力ある雷」を、私たちはあまりに
も久しく忘れていたのかもしれない。

黒田晶子(くろだ あきこ)

一九四二年中国天津生れ。国際基督教
大学卒。訳書「鳥たちをめぐる冒険」他
多数。「森なしには生きられない」など
にエッセイ掲載。石狩町在住。